

平成17年9月28日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

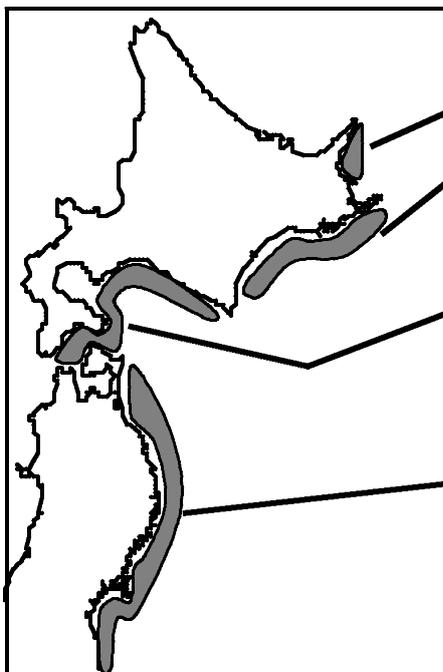
北海道区水産研究所

平成17年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2005年10月～12月)

北部太平洋海域におけるスルメイカの来遊水準は2004年を上回る



○北海道東部～根室海峡周辺海域：
2004年を上回る
魚体は22～24cmが主体

○津軽海峡～北海道南部海域：
2004年を上回る
魚体は22～24cmが主体

○常磐～三陸海域：
2004年並みかやや下回る
魚体は22～24cmが主体

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び北海道区水産研究所のホームページ(<http://www.hnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、笠原

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7375)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：mitsuhito_kasahara@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 企画連絡室

〒085-0802 北海道釧路市桂恋116番地

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355、電子メール：hnf@ml.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	三重県科学技術振興センター 水産研究部
北海道立函館水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
青森県水産総合研究センター	高知県水産試験場
岩手県水産技術センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
宮城県水産研究開発センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班
福島県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター
茨城県水産試験場	北海道区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	東北区水産研究所 八戸支所
神奈川県水産技術センター	日本海区水産研究所
静岡県水産試験場	中央水産研究所

平成17年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2005年10～12月）

対象魚種：スルメイカ

予測海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～北海道南部海域、
北海道東部～根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網

対象系群：冬季発生系群（2005年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示。

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網）

- (1) 来遊量：2004年並みかやや下回る。
- (2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。
- (3) 魚体：2004年より小型。11月では22～24cmが主体。

2. 津軽海峡～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：2004年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。
- (3) 魚体：2004年より小型。11月では22～24cmが主体。

3. 北海道東部～根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：2004年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：北海道東部海域は10月まで。
根室海峡周辺海域は11月が中心。
- (3) 魚体：2004年より小型。11月では22～24cmが主体。

漁況の経過（2005年5～8月）および見通しについての説明

(1) 資源状態

太平洋海域に来遊するスルメイカは冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲動向から推測すると、1970～1980年代の低水準期から、1989年以降、増加に転じ、1992年以降は中位～高位水準で推移していると考えられる。近年10年間では1996年（漁獲

量：276,249トン）が最も資源水準の高い年であった。

2004年10～12月の漁獲量は45,963トンで、2003年同期の87%に減少した。特に津軽海峡周辺海域の漁獲量減少が顕著であった。これは太平洋沖合域を北上したスルメイカの多くがオホーツク海へ回遊したため、道東太平洋岸への回遊が減少し、その結果、津軽海峡へ南下する群が2003年より減少したことが要因として考えられる。

(2) 関連調査結果

第2次漁場一斉調査（道県水産試験場・水産研究所、8月中旬～9月上旬、いか釣り）および関連いか釣り調査（岩手県水産技術センター、8月下旬～9月上旬）によると、三陸～北海道東部海域までの各沿岸域を中心にスルメイカが漁獲され、襟裳岬周辺、津軽海峡東口周辺、三陸沿岸南部で高いCPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）が見られた。2004年の調査結果と比較すると、襟裳岬以東の北海道東部海域におけるCPUEの増加が特徴であった。しかし、根室半島周辺及びオホーツク海では昨年同様、スルメイカの漁獲はほとんど無かった。この調査結果から算出した三陸・北海道太平洋海域での平均CPUEは8.3尾であり、2004年の2.9尾の282%に大きく増加し、1990年以降では1992年に次ぐ高いCPUEであった。また、近年5年平均比でも195%と高い水準であった。

(3) 2005年の各海域の漁況経過（主に6～8月、一部暫定値）

2005年6～8月の高知県以東太平洋側主要港でのスルメイカ漁獲量（釣り、定置網、底びき網、まき網等；生鮮）は16,984トンであり、2004年（36,989トン）を大きく下回り、近年5年平均比で53%となった。この漁獲量減少の要因は明らかにはなっていないが、スルメイカの小型化、日本海からの来遊量減少、太平洋における北上経路の変化等が考えられる。以下に海域ごとに述べる。

- ・房総以西海域：高知県での釣りによる6～8月の漁獲量は250トンであり、2004年（66トン）の3.8倍に大きく増加した。特に清水港（足摺岬）での漁獲量増加（1トン→122トン）が顕著であった。和歌山県での釣りによる6～8月の漁獲量は92トンであり、2004年（55トン）の1.4倍に増加し、CPUEも2004年を上回った。三重県での釣りとまき網による6～8月の漁獲量は116トンであり、2004年（544トン）を大きく下回った。釣りのCPUEも2004年の55%に減少した。静岡県での釣りによる6～8月の漁獲量は18トンで、2004年（90トン）を大きく下回り、CPUEも2004年の50%に減少した。神奈川県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は3トンであり、2004年（9トン）を下回った。しかし、釣りのCPUEは2004年並であった。千葉県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は38トンであり、

2004年（59トン）を下回り、釣りのCPUEも2004年の86%に減少した。以上のように6～8月の房総以西海域では三重県以東で来遊量減少、和歌山県以西で来遊量増加となっていたと推測される。

- ・常磐海域：茨城県での沖合底びき網および小型底びき網による5～6月の漁獲量は6トンであり、2004年（27トン）を大きく下回り、沖合底びき網のCPUEも2004年の19%に減少した。福島県での釣りおよび底びき網による6～8月の漁獲量は188トンであり、2004年（161トン）をやや上回った。沖合底びき網のCPUEはほぼ前年並みであったが、釣りのCPUEは2004年の41%に大きく減少した。以上のように、6～8月（一部5月）の常磐海域では南部では前年を下回り、北部ではほぼ前年並みの来遊水準であったと推測される。
- ・三陸海域：宮城県での釣りによる6～8月の漁獲量は509トンであり、2004年（1,510トン）を大きく下回り、CPUEも2004年の53%に減少した。また、底びき網による6～8月の漁獲量も694トンであり、2004年（1,134トン）を大きく下回り、CPUEも2004年の87%に減少した。岩手県での釣りによる6～8月の漁獲量は944トンであり、2004年（2,789トン）を大きく下回り、CPUEも2004年の75%に減少した。しかし、定置網による6～8月の漁獲量は1,455トンであり、2004年（1,022トン）を上回った。青森県白糠港及び八戸港の釣りによる6～8月の漁獲量は1,855トンであり、2004年（3,343トン）を下回り、CPUEも2004年の94%に減少した。まき網による6～8月の漁獲量は11,278トンであり、2004年（13,173トン）をやや下回った。以上のように、6～8月の三陸海域では、ほぼ全域で前年を下回る来遊状況であったと推測される。
- ・津軽海峡～北海道南部海域：青森県大畑港の釣りによる6～8月の漁獲量は1,164トンであり、2004年（1,363トン）を下回ったが、CPUEは2004年の123%に増加した。渡島支庁における釣り及び定置網による6～8月の漁獲量は5,571トンで、2004年（6,679トン）を下回った。しかし、函館港における釣りのCPUEは2004年の106%に増加した。胆振・日高両支庁における釣りと定置網による6～8月の合計漁獲量は894トンであり、2004年（2,639トン）を大きく下回ったが、日高支庁浦河港における釣りのCPUEは133%に増加した。以上のように6～8月の津軽海峡～北海道南部海域では、ほぼ全域で漁獲量が前年を下回っていた。しかし、各海域ともCPUEは前年を上回っていた。これらのことから、6～8月の来遊群の豊度は前年を上回る水準であったものの、主に漁期の遅れから漁獲量は前年を下回る結果となったと推測される。

- ・北海道東部海域：2005年は沖合域の水温上昇が予想より早かった影響もあり、2004年よりは漁期は遅れたものの、8月中旬には釣り漁業が本格化した。その結果、北海道東部海域での釣りによる7～8月の漁獲量は1,922トンに達し、2004年（1,274トン）を上回った。また、釧路港における釣りのCPUEは2004年の167%に大きく増加した。前年を上回る漁獲になった要因として、5月に実施した新規加入量調査で確認されていた東経155度以東の小型群が、北海道東部沖合域の昇温と共に沿岸域へ来遊したことが推測される。
- ・根室海峡周辺海域：羅臼近海における釣りおよび定置網等による7～8月の漁獲量は2トで、2004年（5トン）を下回った。なお、釣りによる漁獲は9月22日まで確認されておらず、前年と同様に初漁が遅れている。

(4) 魚体の大きさ

- ・8月下旬～9月中旬の漁場一斉調査（いか釣り）およびその他のいか釣り調査で漁獲されたスルメイカの全調査地点での外套背長組成は、18～21cm主体でモードが20cmの単峰型を示していた。2004年同期の調査結果では、20～24cm主体でモードが22cmであり、2005年は全体的に2～3cm小さかった。海域別では三陸海域が17～20cm主体でモード19cm（2004年：21～24cm主体でモード23cm）、下北半島～襟裳岬以西海域が18～22cm主体でモード20cm（2004年：20～23cm主体でモード21cm）、襟裳岬以東海域が18～21cm主体でモード19cm（2004年：20～24cm主体でモード22cm）であった。

(5) 今後の見通しの説明

- ・根室海峡周辺海域：根室海峡周辺海域の来遊状況に大きな影響を及ぼすと考えられる国後島周辺海域の7～8月の表面水温は、高温傾向であった2004年よりも高く、スルメイカの来遊に好適な条件となった。8月下旬～9月上旬に実施されたオホーツク海及び根室半島周辺でのいか釣り調査では、スルメイカの濃密群は確認できなかった。しかし、同様の調査結果であった2004年は、根室海峡周辺での10～12月の漁獲量は2003年を上回る6,215トンに達した。また、根室海峡周辺海域に来遊すると推定されている太平洋沖合北上群は、5月に実施された新規加入量調査から、2004年を上回る水準と推定されている。以上のことから、根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは前年を上回る水準と推測される。しかし、オホーツク海の表面水温が2004年よりも高温傾向で推移しているため、主漁期は11月と予測される。
- ・北海道東部海域：2005年8～9月上旬までに北海道東部海域に来遊したスルメイカは、

9月上旬までの漁況情報および第2次漁場一斉調査結果等から昨年を上回る水準と推測された。2000年以降、北海道東部太平洋岸の主漁期は8～10月であり、11月には漁獲量が大きく減少する。そのため、今後は1ヶ月程度でこの海域の漁期は終了すると予測される。なお、9月下旬現在、釧路より東部の根室半島太平洋岸にも漁場が形成されている。

- ・ 津軽海峡～北海道南部海域：津軽海峡～北海道南部海域の漁況は北海道東部海域からの南下群の動向と関連が深く、この南下群は津軽暖水の勢力減少にともなう水温低下とともに津軽海峡東口周辺海域に来遊すると考えられている。2005年の襟裳岬以東の北海道東部沿岸域の来遊群は昨年を上回る水準と予測されるため、津軽海峡～北海道南部海域に来遊する資源水準も2004年を上回ると推測される。
- ・ 常磐～三陸海域：常磐～三陸海域の2005年の来遊状況は、漁獲量やいか釣りCPUEの比較から2004年を大きく下回る水準と推測された。また、2005年は三陸近海表層水温が2004年より高温傾向で推移したため、漁場形成に不利な環境が持続したと考えられる。10月以降の来遊水準に関しても、周辺海域での調査結果および漁況状況から2004年を上回るとは考えにくく、前年並みかやや下回る水準になると推測される。
- ・ 海域別の外套長組成：海域別の外套背長組成を比較すると、三陸海域で4cmモードが小さく、下北半島～襟裳岬以西海域では1cmモードが小さく、襟裳岬以東では3cmモードが小さくなり、全体的に2004年より2～3cmほど小型であった。そのため、2005年11月の漁獲主体の外套背長は、2004年より2～3cm小さくなると推定される。

表 1. 太平洋海域におけるスルメイカの6～8月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1997	573	14,794	18,866	1,159	35,392
1998	383	5,524	6,121	618	12,646
1999	569	12,897	6,558	269	20,293
2000	412	26,466	7,948	2,488	37,313
2001	607	13,771	8,556	599	23,533
2002	538	15,531	11,721	93	27,884
2003	506	21,390	11,302	174	33,373
2004	822	24,188	10,701	1,278	36,989
2005	516	6,902	7,643	1,924	16,984

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト)

表 2. 太平洋海域におけるスルメイカの10～12月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1997	191	36,765	46,907	15,502	99,365
1998	67	5,688	19,051	5,850	30,657
1999	167	13,446	7,477	4,200	25,289
2000	185	19,848	22,469	32,054	74,555
2001	139	33,922	22,452	15,551	72,063
2002	148	42,041	8,802	7,240	58,231
2003	39	13,506	34,805	4,409	52,759
2004	100	25,828	12,891	7,144	45,963

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト)

表 3. 第 2 次漁場一斉調査および関連調査(8月下旬～9月中旬)における
いか釣り試験での操業地点数と平均CPUE(釣機1台1時間当たり漁獲尾数)

年	操業地点数	平均CPUE	年	操業地点数	平均CPUE
1990	55	0.43	1998	33	2.63
1991	57	1.86	1999	37	0.66
1992	55	17.90	2000	51	5.28
1993	41	4.02	2001	40	6.53
1994	28	0.83	2002	51	2.79
1995	40	1.50	2003	49	3.62
1996	47	4.10	2004	52	2.93
1997	41	5.65	2005	51	8.25